

# 日本保育者養成教育学会 ニュースレター

■第5号■

The Japanese Society for the Study on Hoikusha Education

2022年2月21日発行 編集・発行 日本保育者養成教育学会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2-401 (株)ガリレオ学会業務情報化センター内

## 挨拶

会長 小川清美

収まっていたコロナが再び勢いを増し、実習の予定を変更せざるを得なくなったりしている今日この頃です。保育者養成をしている私たちにとって、本当に大変な状況になってしまいました。必ず、収束する時はあると信じて、この難所を超えていかなければなりません。もうしばらくは我慢の時期でしょう。

さて、この学会の立ち上げから、長い間、会長を務めてきましたが、そろそろ新しい体制に代わる時期だと考えています。現在は、オンラインで開催していますが、研究大会や学会研究誌の出版など、学会として継続して行ってきました。会員数は1000名を超え、よちよち歩きだった学会は、自立する時期になりました。

これらは一人ひとりの会員の皆様のご協力の賜物です。ありがとうございました。今後とも努力を重ねて、「保育者養成教育」という分野を確固なものにしていきましょう。手をとられなくても歩けるようにはなりましたが、どこに向かって歩くのかは、まだ決まっていません。それぞれの会員の研究心や探求心が重要です。共に進んで行きましょう。

## 第 6 回研究大会にむけて

大会実行委員長 請川滋大（日本女子大学）

2022年3月6日（日）に第6回研究大会がweb開催形式で開かれます。今回は集会形式での大会を実施したかったのですが、コロナウィルスの影響がとても大きく会場を借りることができませんでした。そのため、今回もやむを得ずweb開催となりましたが、多くの方にご参加いただければ幸いです。

第6回大会のテーマは「『つながり』を生かした保育者養成」です。コロナ禍において、はからずも、保育者養成をしていく上では様々な「つながり」を大切にしていかなければならぬことを改めて感じさせられました。大会テーマからシンポジウムの内容を検討し、「保育現場と行政、保育者養成校の連携による保育者養成の可能性」というタイトルで実施することにしました。行政の立場から世田谷区保育課の池田斗起子氏、実践現場の代表者として世田谷区立南八幡山保育園園長の宮下佐知子氏、そして公立保育園での園長経験がある西智子氏（元・日本女子大学教授）をシンポジストとしてお招きいたします。どうぞ楽しみにしててください。

保育という仕事は、人が人を育てていくという営みに他なりません。そのような専門家を養成する際に、人との関係を希薄にした状況では良い養成ができるはずもありません。コロナウィルスは人と人が接することによって増殖・変異していきませんが、特効薬のない今、私たちは互いの接触をできるだけ避けるという方法でウィルス感染を防ぐしかない状況です。将来はインフルエンザウィルスと同じように、コロナウィルスとも共生をしていくことになるでしょう。一定程度の安全を確保した共生状態に移行するまでは、保育者養成に携わる私たちは、できる限りの工夫と努力で実践力のある保育者を養成していかななくてはならないようです。そのためにはICTツールの活用も必要となってくるでしょう。第6回大会が、今後の保育者養成の可能性を考える良い機会になればうれしい限りです。

大会ホームページ <http://www.h-yousei-edu.jp/taikai/>

シンポジウムご案内

<http://www.h-yousei-edu.jp/download/taikai/taikai6th/symposium20220306.pdf>

## 特集 2020年度日本保育者養成教育学会 研究助成の成果について

当学会では、保育者養成教育に関する研究を行い、保育者養成教育の発展に寄与することを目的とし、保育者養成に関する研究事業の一層の促進を図るため、研究助成を実施しています。

今回、2020年度の採択者（グループ1件、個人2件）より、その研究助成の概要を報告していただきます。なお、研究成果の詳細は、3月6日に行われる第6回研究大会にて発表されます。

\*日本保育者養成教育学会研究助成要項

[http://www.h-yousei-edu.jp/download/20200605\\_doc4.pdf](http://www.h-yousei-edu.jp/download/20200605_doc4.pdf)

---

### 2020年度 日本保育者養成教育学会研究助成を受けて

植草学園短期大学 植草一世

この度は2020年度日本保育者養成教育学会研究助成をいただき、誠にありがとうございました。このような大変貴重な機会をご提供いただいたことを心より御礼申し上げます。

研究期間を経て、その報告を2021年9月に学会に提出いたしました。本研究内容の詳細は第6回日本保育者養成教育学会研究大会にて発表させていただきます。

また、研究テーマの延長上のこととなりますが、このような貴重な機会をいただいたことで、公益財団法人日本生態系協会主催「全国学校・園庭ビオトープコンクール2021発表大会」につきまして、植草学園【共生の森】が「日本生態系協会会長賞」を受賞いたしました。今後も森の生物多様性の向上を子どもや学生の学びの場、地域コミュニティの柱へと位置づけるように取り組んで参ります。

この度は本紙面をお借りしてお礼とさせていただきます。本研究につきまして簡単ではございますが、以下の研究概要をご報告させていただきます。

## ビオトープの自然体験を重視した新たな実習教育の構築

### －「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を指標にした保育科学生・保育者・幼児の相互の学びに焦点をあてて－

○植草一世（植草学園短期大学）・金子功一（植草学園大学）・松原敬子（植草学園短期大学）・栗原ひとみ（植草学園大学）・金子智栄子（文京学院大学）

#### 1. 問題と目的

本研究では、ビオトープの自然体験を重視した新たな実習教育を構築するため、「幼児期の終わりまでに育ってほしい(10の)姿」の各側面を指標として、実習前後の保育科学生が自然体験活動を通してどのような体験が印象に残ったか、及び現職保育者が完成したビオトープの中で、子ども達の遊びをどのように捉えているかについて検討することを目的とした。なお、コロナ禍であることを踏まえ、大学・短期大学としての保育者養成教育のあり方を見いだすことも目的とした。

#### 2. 結果と考察

記述内容の分析では、KH Coder (Ver. 3. Alpha. 13) を用いた。その結果、学生や保育者の記述から、ビオトープやツリーハウスで子ども達が楽しく遊ぶ様子、ビオトープ作りを通じた自然体験への想いが明らかとなった。ビオトープ作りを重視した自然体験活動は学生自身の深い学修につながるとともに、子どもの遊びの豊かな広がりとその遊びを見つめる保育者の眼差しが示された。

#### 3. まとめ

2020年度以降はコロナ禍で活動への制限が生じた。特に、実習生への影響は大きなものであったが、子どもとかわることができない中、ビオトープの自然体験を重視した授業活動を積極的に実施することは学生のより深い学びを提供し、新たな実習教育の構築につながる可能性が示唆された。



写真 完成後の附属園のビオトープ

## 2020 年度 日本保育者養成教育学会研究助成を受けて

弘前大学 松田侑子

2020 年度研究助成にご採択いただき、ありがとうございました。助成いただいた研究の概要・成果につきまして、簡単ではございますが、以下にご紹介させていただきます。

本研究の主たる目的は、保育者の職業的アイデンティティ尺度を作成することでした。保育者の離職の多さが社会的問題になっておりますが、研究領域においても保育者のキャリア継続や適応の難しさは広く・長く取り上げられてきたところではあります。そうした中で、保育者のストレスの高さは繰り返し指摘されており、いかに精神的健康を維持しながらキャリアを形成していくかは重要な課題とされてきました。これまでに、ストレス緩衝や離職抑止の要因として着目されてきたものの一つが「保育者効力感」です。その概念的性質を考えると、若手保育者や保育学生の変化を捉えるには非常に有用である一方、中堅以上の保育者の発達を十分に捉えることが難しいとも推測されます。

そこで、今回新たに着目したのが、職業的アイデンティティです。看護職を中心として、介護職、教職など、様々な専門職者の適応や成長を捉えるために用いられてきています。保育者の職業的アイデンティティに関する研究も蓄積されてきていますが、尺度の開発が未だなされていない点が課題の一つとなっていました。そこで、本研究では、保育者の職業的アイデンティティを「保育の専門家として独自で一貫した自分らしさを維持できており、それが他者との間でも違和感なく受け入れられている状態」と新たに定義し、尺度を作成することといたしました。

今回は、インターネット調査を使用したため、様々な施設種別（保育所・幼稚園・認定こども園）、年齢、経験年数の保育者を調査対象としています。結果としては、保育者の職業的アイデンティティ尺度は4つの下位尺度、つまり、保育者として自分の目標や展望が明確である感覚を示す「保育者としての目標」、保育者としての自分の喪失感や保育という仕事に対する迷いを表す「保育者である自分への迷い」、保育者としての自分が、同僚や上司、保護者、子どもといった他者に受け入れられている感覚を指す「他者からの承認」、保育という仕事を続けていけそうな感覚を示す「保育者を続ける確信」、から構成されていました。また、各下位尺度は一定の信頼性を有していること、アイデンティティの確立、職業キャリア成熟、保育者効力感との相関係数から、基準関連妥当性を有していることが確かめられました。

加えて、保育者の職業的アイデンティティ尺度の特徴を把握するため、属性による違いを検討したところ、保育者の所属する施設種別で違いはないこと、保育経験年数や職位による違いがあることがわかりました。

コロナ禍において保育者がエッセンシャルワーカーと再認識される今、保育者の職業的アイデンティティが、保育者の適応や成長を考えるための新たな視点として、研究領域の更なる活性化の契機となれば、と考えています。

## 保育者養成課程における3度音程に着目した音楽基礎力育成教材の研究

内山 尚美（静岡英和学院大学）

この度2020年度研究助成をいただきまして「保育者養成課程における3度音程に着目した音楽基礎力育成教材の研究」を行うことができました。この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。

子どもの表現を援助し育むために保育者に必要とされる最も基礎的な音楽スキルは、読譜力であると考えます。読譜では音高の把握から始めることが多いため、この音高認識力を高めることにより、ピアノ初学者の音楽に対する苦手意識の軽減とモチベーションの向上させることが期待できます。

そこで保育現場で用いられている楽曲に3度音程が多用されていることに着目しました。3度音程を用いたワークシートによるこれまでの授業実践をふまえて、3度音程読譜練習の効果を更に検証し読譜練習問題を精査することに加えて、読譜練習で獲得した読譜力を鍵盤楽器の演奏時に繋げるための3度音程を用いた演習的教材を試みました。なお本研究は、S大学人間社会学部「ピアノ教育」受講者11名、「歌唱伴奏法」受講者11名の合計22名を対象としました。

まず、「読譜トレーニング」と称した読譜練習のワークシートを実施しました。「読譜トレーニング」の読譜方法は、これまでの調査結果に基づいてピアノ習熟度に応じた単純読譜法、3度音程読譜法の2種類で実施し、確認問題によって効果を検証しました。次に、3度音程ずつイタリヤ音名を唱えながらピアノを弾く所要時間を計測する「3度音程弾きタイムトライアル」とその確認問題によって効果を検証しました。

その結果、「読譜トレーニング」は「3度音程弾きタイムトライアル」の経験後に顕著な得点上昇が認められ、併用することによってピアノ初学者の「読譜トレーニング」得点においてプラトー及び低下現象が表れにくい傾向が把握できました。

また「3度音程弾きタイムトライアル」では、ピアノ初学者である単純読譜群の最終回での平均所要時間がピアノ経験者である3度音程読譜群の初回平均所要時間と同等の値となり、この記録を経験した学生は未経験の学生よりも高い得点であったことが明らかになりました。くわえて「3度音程弾きタイムトライアル確認問題」において、ピアノ初学者に対する単純読譜法の有益性を確認できました。

そして「読譜トレーニング」と「3度音程弾きタイムトライアル」の併用は、ピアノ初学者が有効的な実感を得られていることを把握しました。更にピアノ初学者の「読譜トレーニング」得点は、「3度音程弾きタイムトライアル」の経験後に上昇幅が顕著であったことから、演奏技術を伴った読譜力育成の一助になる可能性も得ることができました。

これらの調査結果から理論的実践教材と演習的実践教材の条件を抽出し、各々の教材例を作成しました。

なお詳細は第6回日本保育者養成教育学会研究大会にてポスター発表を行います。

## 事務局より

副会長 高橋貴志

2016年3月に日本保育者養成教育学会が発足してから間もなく6年が経過します。本学会が設立された最大の理由は、全国保育士養成協議会から発行されていた『保育士養成研究』が、保養協という組織の性格上（団体会員の集まり）、日本学術会議協力学術研究団体所属の組織が発行する学会誌としての認定が困難だったため、保育者養成に関わる個人会員によって組織された学会を新たに立ち上げる必要があったことにあります。

学会としての十分な活動実績が積まれたことから、この度、日本学術会議協力学術研究団体としての指定申請をし、2022年1月に、日本学術会議より、本学会が同団体として指定された旨の通知が届きました。

よって、今後発行される『保育者養成教育研究』は、“日本学術会議協力学術研究団体の一員としての保育者養成教育学会”が発行する学会誌となります。これで本学会は本当の意味でのスタートラインに立ったとも言えます。引き続き、本学会への積極的なご参加、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。